

令和5年度

学校評価結果

(児童・保護者・教職員)

坂井市立長畝小学校

豊かな心

| スクールプラン | アンケート項目 | | ※1 A+B | ※2 達成度 |
|----------------|---|---|--------|--------|
| 3 あ運動の定着 | 教職員 | 私は、手本となるようなあいさつをしたり、大きな声であいさつをしたりするための声かけなどの指導を行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、すすんであいさつすることができた。 | 93.0% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、自分から進んであいさつをしている。 | 78.8% | △ |
| | 教職員 | 私は、廊下の歩き方や通行のルールを守るような指導を行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、学校や家でのルールを守って安全に生活することができた。 | 92.0% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、ルールを守って安全に生活することを心がけている。 | 92.2% | ○ |
| 人権教育・道徳教育の推進 | 教職員 | 私は、思いやりの心を育てる指導を行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、友だちの気持ちを考えて言葉づかいや行動をすることができた。 | 94.1% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、家族やまわりの人の気持ちを考えて話したり行動したりすることができている。 | 87.0% | ○ |
| 絆づくり・居場所づくり | 教職員 | 私は、縦割り活動で、児童に役割を持って活動させることを行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、行事や集会、そうじなどのたてわり活動で協力して活動することができた。 | 97.9% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、学校が楽しいと感じている。 | 93.3% | ○ |
| 不登校・いじめ等の未然防止 | 教職員 | 私は、「いじめ」をなくすための指導を行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、友だちのいやがることをしないように行動することができた。 | 94.4% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、まわりの人がいやがることをしないように行動することができている。 | 91.3% | ○ |
| 体験活動の充実 | 教職員 | 私は、様々な体験活動を取り入れた指導を行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、進んで体験活動をすることができた。 | 92.3% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、学校での体験活動を楽しみにしていると感じている。 | 97.2% | ○ |
| 特別支援、教育相談体制の充実 | 教職員 | 私は、個に応じた支援を行った。 | 100.0% | ○ |
| 成果と課題 | <p>■3 あ運動の定着 学校で行ってきた様々なことが成果となっていると思われる。例えば、全校朝礼での校長先生や生徒指導の話、校舎内での「こんにちは」の徹底、はっぴーすマンの講演、挨拶名人の紹介、玄関での挨拶運動などである。今後も継続していきたい。 保護者の評価が低いが、来年度に向けては、以下の点に留意して指導していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の価値項目に挨拶と関連する内容があるので、全校一斉に道徳で挨拶について見つめ直す。できれば親子道徳の時間に行えるとよい。 ・「明るく元気な挨拶」から「自分から」や「地域の人にも」、「気持ちのよい声で」といったより発展的な指導に移行していく。 ・地域の人や保護者への挨拶はどのような状況なのか調査をする必要があるのかもしれない。 <p>■不登校・いじめ等の未然防止 学校全体で「いじめ」は絶対にダメという雰囲気作りがよかった。いじめが発生した場合の早期発見や早期対応、職員の連携、情報の共有がしっかりできた。</p> <p>■特別支援、教育相談体制の充実 毎月のサポート会議で児童の様子を全教職員で共有し、共通理解を図ることができたことがよかった。また、支援会議で様々な支援の仕方を話し合い柔軟な対応ができたことや、スクールカウンセラーなど関係機関との協力や保護者との密接な連携ができたことが効果があったといえる。</p> | | | |

※1 それぞれのアンケート項目について次の4つの回答がある。A:よく当てはまる B:だいたい当てはまる C:あまり当てはまらない D:全く当てはまらない
 「A+B」はAとBの割合を合わせたものである。

※2 「達成度」はA+Bの割合が80%を上回っている項目が○ 80%を下回っている項目が△となっている。

確かな学力

| スクールプラン | アンケート項目 | | A+B | 達成度 |
|--------------|---|--|--------|-----|
| 基礎学力の定着 | 教職員 | 私は、授業や家庭学習の中で、漢字や計算の育成を図るための実践を行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、漢字や計算テストにおいて練習した。 | 91.6% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、漢字や計算テストに向けて学習に取り組んでいた。 | 57.7% | △ |
| 対話の質を高める授業改善 | 教職員 | 私は、対話の質を高めるための取り組みを行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、自分と違う意見について考えるのが楽しかった。 | 89.2% | ○ |
| 読書活動の充実 | 教職員 | 私は、読書活動に取り組む指導を行った。 | 92.9% | ○ |
| | 児童 | わたしは、読書活動に取り組むことができた。 | 88.8% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、読書の機会をもつことができている。 | 38.2% | △ |
| ICT機器の効果的な活用 | 教職員 | 私は、タブレットを効果的に活用した実践を行った。 | 93.8% | ○ |
| | 児童 | わたしは、タブレットを使った学習に取り組むことができた。 | 96.9% | ○ |
| ふり返し活動の充実 | 教職員 | 私は、効果的なふり返し活動を行った。 | 87.5% | ○ |
| | 児童 | わたしは、ふり返し活動に取り組むことができた。 | 95.5% | ○ |
| 家庭学習の習慣化 | 教職員 | 私は、基礎学力の充実を図るために家庭学習の習慣を身につける取り組みを行った。 | 100.0% | ○ |
| | 児童 | わたしは、家庭学習に取り組んだ。 | 93.0% | ○ |
| | 保護者 | お子さまは、家庭学習に取り組んでいる。 | 72.4% | △ |
| 成果と課題 | <p>■基礎学力の定着 保護者の評価が低い原因は、テストの成績が悪かったためだと考える。今年度のテストは、昨年度までのように練習問題から少し問題を変えるだけのよい点数をとらせるテストから大きく変更し、各自の総合的な学力が反映するテストにした。結果、難易度が上がり点数は悪くなった。来年度に向けては、基礎学力を上げる手立てを考えていく。また、クラス内の全児童に画一的にドリル的な宿題を増やすのではなく、タブレットで解くドリルなど、個人の能力に最適化された宿題の取り組みませ方などを検討していく。</p> <p>■読書活動の充実 校舎の工事により図書室を利用できない時期が長かったが、読書活動に取り組むことができたことと答えた児童が多かったことはよかった。教室に多くの図書を置くことで、すぐに本を手にとることができたことがよかったのかもしれない。保護者の評価が低かった原因については、家庭ではスポーツ少年団の活動やインターネット、ゲームをすることで多くの時間を費やし、読書に親しむ時間をもてなかったのだろうと考えられる。そこで来年度は、家庭で読書する機会を増やすために週末家庭読書に取り組む。また、学校で行っている読書指導の様子をブログ等で家庭に発信することで、保護者も読書に対して関心を深めよい方向に繋がっていくのではないと考える。学校での読書指導の改善として、毎週借りに行く時間を決めたり、昼活動を利用した読書指導をしたり、図書室での「読書のすすめ」を行ったりしていきたい。</p> <p>■ICT機器の効果的な活用 ICT部会の取り組みや計画的に行われた研修会がよい結果に繋がっているのだと考える。来年度に向けては学年で行ったICTに関する学習を学校全体に共有し広げていく取り組みを進めたい。そのために、まず効果的な情報共有の方法を考えていきたい。また、ICTを利用した授業を見合ったり、相談したりする機会を定期的に設けていきたい。</p> <p>■ふり返し活動の充実 教師の評価が高くない原因は、ふり返しについて、効果的だったかどうかを検証する機会が少なかつたためと考える。特に効果的なふり返りの「効果的」という言葉の判断基準への共通理解が徹底されていなかった。来年度は、より効果的なふり返りの指導方法についての研修会を全職員で計画する。</p> <p>■家庭学習の習慣化 保護者の評価が低かった要因は、家庭学習の定義が、教員、児童、保護者で共通理解されていなかったことだと考える。</p> | | | |

健康・安全

| スクールプラン | アンケート項目 | | A+B | 達成度 | |
|-------------|---|--|--------|-----|--|
| 規則正しい生活習慣 | 教職員 | 私は、「早寝・早起き・朝ごはん」について、児童に対する指導を行った。 | 87.5% | ○ | |
| | 児童 | わたしは、「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけることができた。 | 88.5% | ○ | |
| | 保護者 | お子さまは、「早寝・早起き・朝ごはん」が身についている。 | 87.4% | ○ | |
| 体力向上 | 教職員 | 私は、児童の体力向上のため、体育や業間運動の意欲づけを促す声かけを行った。 | 100.0% | ○ | |
| | 児童 | わたしは、体育や業間運動で体力向上に取り組むことができた。 | 94.8% | ○ | |
| | 保護者 | お子さまは、運動に親しみ、体力向上に努めている。 | 81.1% | ○ | |
| 運動の習慣化 | 教職員 | 私は、児童の運動の習慣化を図るため、休み時間の遊びを促す声かけを行った。 | 100.0% | ○ | |
| | 児童 | わたしは、休み時間に外遊びに取り組んだ。 | 75.9% | △ | |
| | 保護者 | お子さまは、運動する習慣が（スポーツ少年団での活動や、帰宅後または休日での外遊びを含む）身についている。 | 75.6% | △ | |
| 安心・安全な環境づくり | 教職員 | 学校は、地域と連携し安心・安全な環境づくりを行った。 | 100.0% | ○ | |
| 食育の推進 | 教職員 | 私は、栄養教諭と連携し、食育の推進を行った。 | 100.0% | ○ | |
| | 児童 | わたしは、給食に使われる食べ物や料理に関心をもって食べることができた。 | 93.0% | ○ | |
| | 保護者 | お子さまは、食に関する興味・関心が高い。 | 70.1% | △ | |
| 成果と課題 | <p>■規則正しい生活習慣 学期に1回の歯っぴーここからチェックをもとに教師が指導したことや、児童がチェックの振り返りをしたこと、保護者が児童の状況を把握し感想を書いたことなどが、成果につながっていると考えられる。身につけていない児童が10%強いるが、保護者と連携をとりながら支援していくことが大切だと考える。来年度、生活リズムやゲーム等に関する講演会を計画していけるとよい。</p> <p>■体力向上 体育の学習において、グー・パー体操、上体起こし、投運動を取り入れたことや、業間運動を行ったこと、体育委員会の運動企画を行ったことなどで、目標値を上回ったと考えられる。また、HPで児童の運動の様子を配信したことも大きな要因として考えられる。業間マラソンでは自分の努力が可視化されるカードを用いた。また、マラソン大会では、春の試走から秋の大会までのタイムアップ賞を設けた。これらのことで、児童が満足感を得られたことも要因と考えられる。冬期には体育館に鉄棒や縄跳び板を常設した。熱中症対策として業間マラソンを実施できない期間が長く続いたが、運動を制限される時期でも体力向上を図れるように考えていく必要がある。</p> <p>■運動の習慣化 低くなった要因として、休み時間の外遊びが熱中症予防により運動が制限されたことや、工事により一輪車・竹馬が使用できなかったことが考えられる。また、学校生活以外での運動習慣については、ゲームでの遊びが増えていることが考えられる。児童の外遊びの様子から、外遊びの種類に限りがあるように感じられる。視力と外遊びについても指導しているが、更に多面的な考えから外遊びを呼び掛ける必要があると考える。</p> <p>■安心・安全な環境づくり 来年度、緊急時の引き渡し訓練を行っていききたい。</p> <p>■食育の推進 高かった要因として、栄養教諭の工夫された食育指導、毎月の給食だよりや給食目標の振り返りが挙げられる。また、担任における毎日の給食指導も要因として考えられる。教師、児童の値が目標を大きく上回ったのに対し、保護者の値が下回ったのは、学校での取り組みが保護者に伝わっていないためと考えられる。そこで、学期に一回、保護者と児童が食について一緒に考える機会を設けてはどうか。また、HPを利用して食育の様子を発信したり毎月の給食目標の振り返りを保護者としたりするのもよいのではないかと考える。</p> | | | | |

家庭・地域との連携

| スクールプラン | アンケート項目 | | A+B | 達成度 | |
|-----------|--|--------------------------------------|--------|-----|--|
| 適切なネット利用 | 教職員 | 私は、パソコンやインターネットを適切に利用できるような指導を行った。 | 92.3% | ○ | |
| | 児童 | わたしは、のうねっ子スマートルールを守ることができた。 | 86.7% | ○ | |
| | 保護者 | お子さまは、のうねっ子スマートルールを守ることができている。 | 75.2% | △ | |
| 保幼小中の連携 | 教職員 | 私は、児童や教員の保幼小中の連携につとめた。 | 92.9% | ○ | |
| 開かれた学校づくり | 教職員 | 私は、おたよりやホームページなどを発信した。 | 93.8% | ○ | |
| | 保護者 | ホームページやお便りを通して、学校の様子がわかる。 | 86.2% | ○ | |
| ふるさと教育の推進 | 教職員 | 私は、教育活動全般において、地域の人材・施設・教材・校外学習を活用した。 | 100.0% | ○ | |
| | 児童 | わたしは、ふるさとのよさを伝えることができた。 | 94.4% | ○ | |
| | 保護者 | お子さまは、地域の行事や祭り、活動に参加している。 | 73.6% | △ | |
| 成果と課題 | <p>■開かれた学校づくり 見ていただくのを待つブログでの発信と合わせて、Home & School（スマホアプリ）の共通連絡を利用したプッシュ型発信で見ていただく機会を増やしていこうと考える。学校側としても、保護者以外には送られないHome & Schoolの場合、プライバシーが守られ写真の選定作業の負担が減るよい点がある。</p> <p>■ふるさと教育の推進 保護者の評価は△にはなっているが、昨年の67.3%から大きく伸びた。ふるさとのよさを見つける課題に取り組んだことや、それを地区の祭りとコラボしたことがよかったのではないかと。また、地区の祭りとPTA行事がコラボしたこともよい評価につながっているのだと思う。これらのことを通して、児童のふるさとへの愛着は着実に上がってきていると考える。学校で取り組んでいるふるさと学習に関する内容を保護者へ周知していくことで、ふるさとに関する意識を高めていきたいと考える。</p> | | | | |